

TOUR DE HOKKAIDO 2005 NEWS

1st Stage 2005年9月15日発行

区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	エディー・ラッティ	NIPPO	4:32:39
2	岡崎和也	NIPPO	+1:23
3	清水都貴	プリチストン・アンカー	+1:23
4	狩野智也	シマノ	+1:32
5	新保光起	愛三工業	+1:37
6	別府匠	愛三工業	+2:10

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	エディー・ラッティ	NIPPO	32
2	岡崎和也	NIPPO	29
3	盛一	愛三工業	17
4	清水都貴	プリチストン・アンカー	16
5	新保光起	愛三工業	15
6	狩野智也	シマノ	14

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	NIPPO	13:59:36
2	愛三工業	+3:36
3	プリチストン・アンカー	+5:34
4	シマノ	+5:52
5	韓国	+8:01
6	ミヤタ・スバル	+8:18
7	鹿屋体育大学	+8:36
8	キナンCCD	+8:43
9	日本大学	+9:14
10	ロシア	+9:17
11	法政大学	+9:36
12	北海道地域選抜	+9:47
13	カナダ	+10:49
14	ラバネロ	+10:52
15	明治大学	+11:28

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	エディー・ラッティ	NIPPO	4:38:28
2	岡崎和也	NIPPO	+1:25
3	清水都貴	プリチストン・アンカー	+1:41
4	狩野智也	シマノ	+1:52
5	新保光起	愛三工業	+1:55
6	別府匠	愛三工業	+2:33

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	エディー・ラッティ	NIPPO	17
2	別府匠	愛三工業	13
3	新保光起	愛三工業	8
4	岡崎和也	NIPPO	6
5	西村拓也	ミヤタ・スバル	5
6	柿沼章	ミヤタ・スバル	2

1st.stage エディー・ラッティ (NIPPO) が圧勝し、3賞を独占。団体も NIPPO へ

第1ステージを迎えたツール・ド・北海道は帯広中央公園を9時にスタートした。天候は晴れ。帯広市から阿寒町までの179kmの今日のステージは、今大会最大の見どころである、ゴール直前の阿寒湖畔スキー場までの上りがある。この上りのタイム差が個人総合優勝争いを大きく左右する重要なステージだ。ラバネロの堀内選手がスタートせず、出走の97選手が帯広をスタートした。

最初のホットスポット通過は、マリウス・ヴィズリアック (NIPPO)、西谷泰治 (愛三工業)、米山一輝 (ラバネロ) の順。

白樺峠への上りで17人の先頭集団が形成。白樺峠の頂上に向けて新保光起 (愛三工業) が単独で上る。続いて清水都貴、柿沼章。しかし、後続から追いついたエディー・ラッティがすべての選手を抜き去り、山頂をトップで通過する。2番手は別府匠。第2山岳ポイントの幌鹿峠もエディー・ラッティがトップ通過し、山岳賞を確定させた。

下り終わって先頭集団は大内薫 (シマノ)、西村拓也 (ミヤタ・スバル)、新保光起 (愛三工業)、岡崎和也 (NIPPO)、橋川健 (キナンCCD)、テレク・マクマスター (カナダ)、清水都貴 (プリチストン・アンカー)、別府匠 (愛



終盤、足寄峠への上りでアタックを決め、独走でステージ優勝を飾ったエディー・ラッティ (NIPPO)

三工業)、柿沼章 (ミヤタ・スバル)、真鍋和幸 (ミヤタ・スバル)、清水裕輔 (プリチストン・アンカー)、狩野智也 (シマノ)、エディー・ラッティ (NIPPO) の13人。メイン集団とのタイム差は3分ほど。

2度目のホットスポットは1位岡崎和也、2位新保光起、3位エディー・ラッティの順。

残り30km。先頭集団から清水裕輔が単独アタック。これをきっかけに先頭集団が動き



16人の勝ち逃げが足寄湖付近を通過する。ここには4チームが2人を送り込み、NIPPOに至っては3人を送り込んでいた

はじめた。メイン集団との差も徐々に縮まる。後続がせまってきたことで先頭集団がペースアップして清水を吸収。先頭集団から大内薫、西村拓也、そして清水裕輔が遅れる。170km地点までの長い上りで、ラッティがアタックし、後続を引き離していく。ラッティは独走のままステージ優勝を果たした。2位に岡崎和也、3位に清水都貴が入った。ラッティが個人総合、山岳、ポイントの3賞を獲得した。

2nd.stage NIPPOのアシスト陣とポイント賞と山岳賞の行方に注目

第2ステージは今年のコースで道内最東端の弟子屈町をスタートし、雌阿寒岳脇の双岳台を越えて阿寒町、釧路町へと南下。一旦、太平洋岸に出て白糠町から再び内陸へ走り、釧勝峠を越えて本別町の本別町総合公園 (太陽の丘) でフィニッシュする。

第1ステージでエディー・ラッティ (NIPPO) が2位以下を大きく引き離れた。ポイント賞、山岳賞すべての賞を独占。さらに団体総合時間もNIPPOがトップに立ち独占状態。

第2ステージからはリーダーを守るために、NIPPOが集団のペースをコントロールすることになる。逆転を狙うにはこのNIPPOのアシスト陣をまず崩さなければならない。タイム差が大きいので逆転するのは至難の業か。

ポイント賞、山岳賞もエディー・ラッティが

保持しているが、第2ステージではこの2賞を争う動きが見えてくる。

ポイント賞は第2ステージ以降、ステージ優勝争いとともに激しい戦いになるだろう。西谷泰治 (愛三工業)、三船雅彦 (ミヤタ・スバル) あたりが候補になる。もちろん現在ジャージを保持しているラッティと岡崎和也も有力候補だ。

山岳賞争いは第1ステージの2つの山岳ポイントを2位で通過した別府匠 (愛三工業) がラッティのジャージを奪いにくるだろう。日本を代表するクライマーがラッティの3賞独占を阻むことができるか。

第2ステージは個人総合時間を守るNIPPOの動きと、ポイント賞と山岳賞の行方に注目したい。



第1ステージ最初のホットスポットが設定されたコープしかおいの前では、沿道の幼稚園児が大挙して応援の旗を振ってくれた



TOUR DE HOKKAIDO